

フットサル 2 級審判員強化研修会

【JFA 第 27 回全日本 U-15 フットサル選手権大会・JFA 第 12 回全日本 U-15 女子フットサル選手権大会】

研修期間 ; 1 月 7 日 (金) ~ 10 日 (月)

開催地 ; 三重県営サンアリーナ

参加者

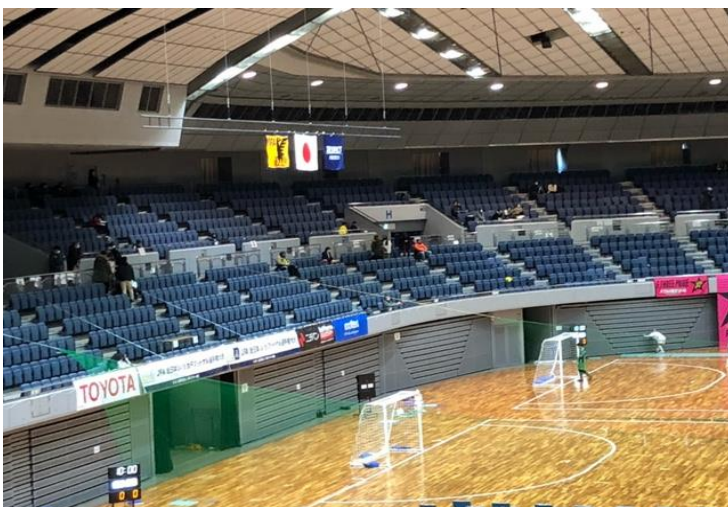
インストラクター

延本 泰一氏, 五十川 和也氏, 櫻田 雅裕氏, 森 文敬氏, 池田 浩之氏, 木村 神津司氏

研修審判員

奈良 紘太郎氏(東北), 西舘 永遠子氏(東北), 高橋 凜平氏(関東), 今 優真氏(北信越)

増田 圭佑氏(東海), 西田 健一氏(関西), 田中 義大(中国), 和田 亮嗣氏(四国), 相澤 一成氏(九州)



《1月7日(金): 前日トレーニング》

- ・W-UPについて(大きな筋肉を使って体を温めるW-UP)
- ・5m距離の歩測, 目測合わせ
- ・基本ポジションの確認
(①セカンドラストディフェンダーより1・2m後方②チャレンジして見に行った後の戻りのタイミング)
- ・4秒カウントの合わせ
- ・ゴールクリアランス時のカウント開始のタイミング
- ・副審のポジショニングと情報伝達について

《1月8日(土): 大会1日目》

①男子グループA 10:00キックオフ
スリーエスジュニアユース vs セントラルFC 宮崎
主審:波多野 祐一氏 第2審判:田中 義大
第3審判:池田圭佑氏 TK:小柳 佑介氏
インストラクター:五十川 和也氏

振り返り

- ・第3審判員も, なぜそのポジションをとったか。意図あるポジションを常にとる。
- ・タイムアウトのタイミングをTKと連携すること。
- ・TKはピッチの状況を必ず見てからブザーを鳴らすこと。
- ・近くで見ようとして入りすぎている場面がある。寄らずに角度をつける。幅を持つ工夫をすること。常に争点に寄ろうとしない。寄らなくても工夫次第でみることができる。
- ・フットサル特有の動きを試合経験を積んで更に身につけて欲しい。判定基準は良かった。自信を持って継続してほしい。

②男子グループC 12:00キックオフ
セレソン都城FC vs 北海道コンサドーレ旭川
主審:田中 義大 第2審判:和田 亮嗣氏
第3審判:池田幸弘氏 TK水谷 孝氏
インストラクター::森 文敬氏

振り返り

- ・危険を感じた時に抑止の声かけをしていた点は良かった。ファウル数が少ないゲームに繋がっていた。
- ・4秒カウントを体身につけるため, 1秒カウントをスマホ等を使って音で聞き, 間隔を掴む。試合前に確認することもできる。
- ・際どいタッチジャッジの判定に対して素早く笛を吹き, シグナルを示している点を良いが, 明らかなものは吹かない方が良い。
- ・止まっている時の姿勢をスマートにするよう心がける。背筋を伸ばし, 次の動きに早く反応できるようにする。
- ・タッチアウトの切り替え時, プレーヤーの縦ドリブルに対する並走, この2点でのスプリントスピードを上げると更によくなる。

③男子グループC 16:00キックオフ
ヴィットーリアスFC vs セレソン都城FC
主審:増田 圭佑氏 第2審判:池田 圭佑氏
第3審判:田中 義大 タイムキーパー:小柳 佑介氏
インストラクター:五十川 和也氏

振り返り

- ・4人の良いチームワークで試合をコントロールできていた。

- ・三角形のポジションを意識してとれていた。気づきを持ちながらできていた。
- ・ファーストファウルの見極めが良かったことがゲームコントロールにつながった。
- ・間接フリーキック（危険な方法でプレーする）
高さ次第では、足を上げるより頭を持っていく方が危ないケースもある。
- ・審判と選手は縦関係ではない。一緒にゲームを創っていくものであるが、イニシアティブをとるのは審判である。
- ・「どのようにしたら人を惹きつけることができるか。伝えたいことが伝えられるか。あなたの思いを届けることができるか。」日常から考えることがレフェリングにつながる。答えは一つではない。各々考えてみてほしい。

→・アイコンタクト

- ・声をかけるタイミング、口調、言葉の選択
- ・気持ちを理解しこちらの行動選択をする。
- ・行動を予想し、こちらの引きだしを持っておく。
- ・段階的に迫る。
- ・はっきり、わかり易く伝える。
- ・傾聴姿勢。
- ・強制ではない。共に。一緒に。の視点で自分の思いは伝える。
- ・信頼してもらう人になる。

《1月9日(日):大会2日目》

①FC ブリンカール安城 U15 vs FC レガッタ 12:00キックオフ
主審:波多野 祐一氏 第2 審判:田中 義大
第3 審判:水谷 宗太郎氏 タイムキーパー:山本愛乃氏
インストラクター:延本 泰一氏

振り返り

- ・概ね判定基準は良かったが、手の不正使用（ホールディング）についてより明確にコントロールしてほしい。
- ・動きがキビキビしている点が良い。
- ・プレーについていき、ポジションがとれている。
- ・CKの際のシグナルの目線に気をつける。どんな状況でも情報を集める努力をする。
- ・タッチジャッジの修正は特に笛を強く吹き、強くはっきり伝える。

②松山城北 FC vs 伊丹 FC 15:00キックオフ

主審:田中 義大 第2 審判:大矢 翼氏
第3 審判:池田 圭佑氏 TK:小柳 佑介氏
インストラクター:森 文敬氏

振り返り

- ・サイドステップ、ダッシュ、バックステップ、方向の切り替えを状況に応じて使っていて、昨日より動きが良くなった。
- ・ベンチの声を気にかけて、ベンチコントロール、対処を主審も含め、審判チームで意識を向ける。
- ・カードの出し方→呼び出して、パブリックに示す。誰が見ても分かるよう示す。
- ・ハンドの判定についての整理。

《1月10日(月):3日目》

京都精華学園中学校 vs 十文字中学校 9:30キックオフ(決勝ラウンド 準決勝)

主審:田中 義大 第2 審判:相澤 一成氏
第3 審判:増田 圭佑氏 TK:西田 純大氏
インストラクター:森 文敬氏

振り返り

- ・キックインの際のマネジメントが良かった。早めに介入していた点がよかった。
ポイント→5mの距離→カウントがスムーズにできていた。
- ・試合にマッチした判定ができていた。
- ・第2審判員のタッチジャッジの判定を正しい情報を送って判定を変える際のシグナルは止まってはっきり示す。走りながらしない。
- ・ファウルカウントの積み上げミスがあった。主審として、チームとして、気づく必要である。
- ・KFPMの際にとるべき位置の確認。なぜ、そこにポジションをとるのかを考えて覚える。

《1月15日(土)：事後研修》

①はじめに ②試合の準備 ③チームワーク ④予測とポジショニング ⑤今後に向けて

- ・事前研修資料を用いた振り返り
- ・今大会のテーマに沿った大会映像を用いた振り返り

今大会テーマ

①自分自身の能力を発揮できるポジショニングを続ける

②チームワークの向上を目指して

- 〈・ポジショニング ・キックインのマネジメント ・キーパーがボールをリリースする際の監視
・アウトオブプレー時の目線 ・寄る場面と戻りにタイミング ・ゴールラインの監視 など〉
- ・今大会でのテーマを引き続き、各地域で継続してやっていくことが力になる。

『大会を振り返って』

新型コロナウイルス感染症が蔓延拡大する中、多くの御配慮をいただき、大変な思いでの大会準備、サポートの上、大会が開催されました。ご尽力いただいた大会運営関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本大会は、U-15の大会で、中学校3年生にとっては最後の大会となります。大会の意義、込められた思いを感じ、責任と覚悟を持って挑ませていただきました。

今大会の研修テーマは「①自分自身の能力を発揮できるポジショニングを続ける。②チームワークの向上を目指して。」の2点でありましたが、失敗した場面、成功した場面がそれぞれ体感できたと考えます。この失敗と成功を自己分析し、チャレンジを繰り返すことが自身を成長させることにつながると感じました。また、どんな場面で連携が必要なのか。チームワークを向上するためには何が必要なのか。答えは一つではないと感じますが、いつ、どんな場面で、どのように、チームワークを発揮するかなど、掴めた部分もあり、自分なりの考えを持つことにもつながったと思います。また、1級審判員及び各地域の2級審判員とともに研修時間を過ごし、試合を担当させていただく中、審判員として明確なビジョンを持ち、ミッションを遂行し、タスクを成し遂げることを追求し、積み重ねて力をつけていくことの必要性と重要性を感じました。

「プレーヤーのために何ができるか。」を自問自答し、フットサルの魅力を引き出す審判員になるために、つけるべき力はまだまだ多くありますが、本研修で学んだこと、考えたことを地域リーグにおいても継続して取り組み、チャレンジを繰り返し、力をつけていきたいです。

本研修へ推薦していただき、学ぶ機会をいただき、本当にありがとうございました。全国大会での学びを今後につなげていきたいと思っています。引き続き、ご指導よろしく申し上げます。ありがとうございました。

